

山口県立萩美術館・浦上記念館

H A G I | 萩

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

萩



115

SPRING ISSUE
2025

池田蕉園「かえり路」4曲1隻(部分) 1915年 東京国立近代美術館所蔵

HAGI URAGAMI MUSEUM

池田蕉園と輝方 — 夢みる美人画 —

明治四十年に始まった文部省美術展覧会（以下、文展）において、美人画が席卷した時代があった。美人画というジャンルは、当時京都は円山・四条派、東京と大阪は歌川派の浮世絵、さらに雑誌の口絵などでも自由な表現が模索されていた。

初期文展において、美人画の分野で活躍した女性画家が池田（榊原）蕉園である。長いキャリアのある上村松園と共に“ふたりのしょうえん”と称されることもあった。蕉園は後に浮世絵をルーツとする池田輝方と結婚。二人は鴛鴦画家といわれ、文展会場で新たな表現様式を獲得していった。官設展の草創期に二人の存在が近代美人画の成立に果たした役割は大きいが、所在不明の作品が多く、生前の名声に比してこれまで美術史で取り上げられる機会は少なかった。しかし近年、蕉園の文展出品作の発見が相次ぎ、この機に珠玉の浮世絵コレクションを誇る山口県立萩美術館・浦上記念館で、歿後初の二人の展覧会が開催されることは画期的である。作品を生んだ歴史性を含めて分析できることを期待するが、何より明治から大正にかけての文展で圧倒的人気を誇った美人画を楽しむ好機となろう。

蕉園は明治十九年、東京神田に生まれた。母は明治初期、洋画家に油画を学んでいる。蕉園は幼稚園に通う頃から遊びもよそに毎日洋画の手本を写すのを楽しみにしたといい、知らぬうちに洋画の筆致や空間把握の力が養われたであろう。父が米国留学から帰国すると極端な洋風嫌いとなって、蕉園は草双紙に親むようになった。その挿絵を写すことにも夢中になって、十五歳で浮世絵の水野年方に入門し、蕉園の号を授った。

一方、池田輝方は明治十六年、東京京橋の建具職人の家に生まれた。水野年方に入門した十二歳の輝方は、挿絵や戦争錦絵で多忙を極める師の側で、絵の具解きから始める住み込みの内弟子となる。年方は寡黙な読書家だったといい、師の手元にあった鳥居清長などから学ぶことで爽やかな天明期の浮世絵の世界に導かれた。同門の鏑木清方が「天才」として認められていたというように、蕉園が出会った頃の輝方は歌川派の系譜の一角を担う青年画家として注目されていた。

入門した蕉園を実際に指導したのは塾頭の立場にあった輝方で、ふたりは忽ち恋に落ちる。榊原家は



池田蕉園「こぞのけふ」六曲一双 久光製薬株式会社 大正6年(1917)

家風の違いもあり交際に反対したが、気立てが良く粋な江戸っ子で優しい輝方に、一途なほどに思いを募らせる蕉園を止めようが無かった。師年方の媒酌で婚約する運びとなり、華燭の典を待つばかりとなる。ところが、輝方は忽然と蕉園の前から姿を消す。年上の女性画家と出奔し、杳として行方がしれなくなったのだ。事態を受け止められない蕉園は、家に籠もり画塾の集まりへ参加することもなくなった。

そんな蕉園に希望を与えたのは〈描くこと〉だった。明治三十八年妹文子をモデルに描いた《わが鳩》は、写生を基礎に置いた確かな素描と細部の技巧が冴え、高評価を得た。この頃から蕉園は自宅近くの帝室博物館に通うようになり、仏画や近世風俗画が放つ光を受け取り、新しい地平を拓けていった。その甲斐もあって開設後の第一回文展から入選を果たし、その後一度も落選することはなかった。「来ぬ人を待つ」切実さが漲る画面は、観る人々にそれぞれの物語を想起させ、心を動かさずにはおかなかったのだ。また、一世を風靡した竹久夢二に影響を与えたという、潤んだような目元の儂げな顔立ちの美人画は蕉園式といわれ、瞬く間に多くの追随者を生み、美人画ブームを巻き起こす要因の一つとなる。

明治四十一年、師の年方の葬儀の日、ふたりは再会する。蕭然と現れた輝方は、蕉園に対し悲しい啖



池田輝方「お七」絹本着色 諏訪山 吉祥寺 明治38年(1905)





新婚の頃の蕉園と輝方(中根岸の自宅にて)

呵を切ったという。しかし蕉園はその言葉のなかに彼女を愛おしむ輝方の至純さが微かに残っていることに気づいたのではないだろうか。明治四十四年七月、戻ってきた輝方と蕉園は結婚する。実際には初恋から九年の経緯だが、“十年の恋を実らせた鴛鴦画家”と新聞や婦人雑誌などが恋愛成就の成功譚として広めた。創作に携わる者同士、どちらかが伴奏者となる関係の構築は至難だが、蕉園は想い焦がれた人との暮らしを大切に、夜は絵筆を執らず裁縫や料理などの家事をしたという。生活で生じる困難を蕉園は輝方に同化していくことで解決しようとし、自らは身を退き筆の落ちた輝方を立て直すことに腐心した。輝方は、芝居に着想を得た作品を特殊な色調で表現して連年受賞を重ね、蕉園を抑える活躍を始める。

結婚後の蕉園の作品については、清楚で誇り高い女性像の陰りが指摘されたが、出産後余裕の出始める頃から渾身の力で大作に挑戦しはじめる。《かえり道》《こそこのけふ》など、制作の過程では彩色に掛かる前夜は昂揚して眠れないほどで、集中を切らさぬ丁寧な賦彩を終えると家族が心配するほど痩せたという。

蕉園は、耽読していた泉鏡花の文学世界から得た画想を、創作の大きな力としていた。一方鏡花はふたりの歿後、蕉園・輝方をモデルにした小説を執筆。そのうちの一篇『楓と白鳩』の冒頭には「お百合さんの面影を偲ぶには、その写真より、おなじ人の描いた美人の絵を見るが可い。優しさも、可^{なつか}しさも、恋も、



池田蕉園「宴の暇」絹本着色 福富太郎コレクション資料室 明治42年(1909)

情けも、活けるが如く其のまゝである」と記している。

大正六年、蕉園は結核を発症し、その年の暮れ五歳のひとり息子をのこし還らぬ人となった。鏡花は「普門品 ひねもす 雨のさくらかな」の追慕の句を捧げた。上野公園に近い谷中霊園に、鏡花の句の刻まれた墓碑があり、今も静かに時を刻んでいる。

これまで、蕉園・輝方については、出会いから結婚に至る“十年の恋”といわれる伝説が好んで語られてきたが、本展を契機に文展を舞台にあざやかな光を放ちながらも忘れられてきた作品へ、再評価の道がひらかれることを願わずにいられない。

古田あき子(美術史家)

コレクション展（浮世絵）

展示室1（本館1F）

みずのしかた

水野年方

【会期】3月29日(土) — 4月20日(日)

水野年方(1866-1908)は、浮世絵師 月岡芳年(1839-1892)の門人として画技を習得した後、他流派の柴田芳洲、三島蕉窓、渡邊省亭からも画風を学び、穏やかで気品ある画風を確立しました。はじめは新聞や小説の挿絵、浮世絵制作に携わり、明治20年代(1887-1896)半ばから浮世絵が終焉を迎える明治

30年代(1897-1906)にかけては、浮世絵版画でありながらも日本画を想わせる美人画のシリーズを次々と発表していきます。また同じ時期には、木版口絵(雑誌や書籍の巻頭に折り込まれた一枚摺の口絵)も数多く手掛けました。その後は、時代の変化とともに日本画家へと転じ、鏑木清方(1878-1972)をはじめ多くの門人を育成しました。このような年方の画業は、浮世絵の画系を次世代の日本画へとつなぐ役目を果たしたと言えます。今回の展示では、年方の浮世絵や木版口絵を中心に紹介します。



水野年方「三井好 都のにしき 3 夏 土用干」
横大判錦絵、明治31年(1898)頃

展示室1（本館1F）

きんだい びじん が けいふ うきよえ にほんが

近代美人画の系譜 — 浮世絵から日本画へ

【会期】4月22日(火) — 5月18日(日)

明治時代に入ると、銅版画や石版画といった西洋から導入した新しい技術による印刷物が隆盛しますが、木版画においても浮世絵の技術を受け継いだ木版口絵という新たな分野が生じました。木版口絵は明治中期に流行し、文芸雑誌や単行本の巻頭に折り込まれたものです。挿絵画家として人気を博したのは、浮世絵も手掛けていた水野年方と尾形月耕。彼らをはじめとした挿絵画家たちはまた、日本画家としても活躍していくこととなります。

また、浮世絵それ自体は、日露戦争(1904)に取材した戦争絵を最期に衰退の一途をたどりますが、大正期になると、渡邊庄三郎によって伝統的な木版技術を継承しながら芸術的な版画をめざす“新版画”が創始され、渡邊のもとで水野年方の弟子である鏑木清方の門弟たちが活躍していきます。

今回は明治中期から昭和期にかけての木版による美人画を紹介し、浮世絵から日本画へと移りゆく表現をお楽しみいただきます。



富岡永洗「もの思う美人」多色摺木版 口絵、制作年不明

コレクション展（浮世絵）

展示室1（本館1F）

つきおかよしとし

しんけいさんじゅうろっかいせん

月岡芳年

新形三十六怪撰

【会期】5月20日(火) — 6月22日(日)

月岡芳年(1839-1892)は、歌川国芳(1797-1861)の門人で、浮世絵が終焉を迎える幕末から明治期にかけて活躍しました。画業のはじめには、師匠ゆずりの躍動感あふれる武者絵や、残虐な殺害シーンが印象的な血みどろ絵を手がけ、その後は新聞錦絵、歴史画、美人画など、さまざまなジャンルで実力を発揮し、浮世絵師として活躍の幅を広げていきました。

〈怪〉をテーマとする「新形三十六怪撰」は、芳年の最晩年の代表作です。本シリーズでは、伝説や歴史物語、謡曲に登場したり、歌舞伎や人形浄瑠璃、落語などを通じて市井の人々に親しまれたりした妖怪や幽霊が生き生きと、時にはコミカルに表現されています。芳年ならではの繊細な描線や、豊かな色彩によって、妖怪や幽霊たちが醸し出す妖気をお楽しみください。



月岡芳年「新形三十六怪撰 おもむつら」
大判錦絵、明治25年(1892)

展示室1（本館1F）

つきおかよしとし

ふうぞくさんじゅう に そう

月岡芳年

風俗三十二相

【会期】6月24日(火) — 7月27日(日)

前回のコレクション展「新形三十六怪撰」に続き、今回も月岡芳年のシリーズ作品を紹介します。

「風俗三十二相」は芳年の美人画の代表作で、明治21年(1888)に刊行されました。本シリーズでは、遊女、奥方、町の娘というように、さまざまな階層の女性たちがとりあげられ、当時流行していた江戸懐古の風潮を反映して、江戸寛政期から明治にいたるまでの各時代の装いで描き分けられています。「三十二相」は、本来は仏教用語で、仏の身体にそなわっている32種類の優れた特徴をいいますが、本シリーズでは「さんじゅうにそう」という読みに掛けて、32名の女性たちが「〇〇そう」なしぐさや表情で描かれているのが見どころです。



月岡芳年「風俗三十二相 けむさう 享和年間内室之風俗」
大判錦絵、明治21年(1888)

日本人を魅了した韓国のやきもの

【会期】3月29日(土) — 6月22日(日)

日本人は古くから韓国のやきものに特別な関心と親しみを持ってきました。高麗時代につくられた高麗青磁は、「翡色」と呼ばれる翡翠のような緑色を帯びた釉薬が特徴で、その美しさから日本でも多くの愛好家があります。一方、朝鮮時代の前半には粉青沙器が、後半には白磁が盛んにつくられました。粉青沙器は象嵌文様をもつ高麗青磁から発展したもので、刷毛目や掻き落としなどさまざまな白土装飾によりいくつもの表情を見せる点が魅力です。さらに、白磁はやわらかい味わいのものが好まれ、とくに白磁の大壺は、ふっくらとしたその造形美が、文豪・志賀直哉や思想家・柳宗悦などの多くの日本人に愛されてきました。

本展覧会では、高麗時代につくられた高麗青磁をはじめ、朝鮮時代の白磁や粉青沙器のほか、鉄釉のかかった黒いやきもの、鉄絵で描かれた鉄砂や青のコバルト顔料で風景などを描いた青花などを展示し、これまで日本人を魅了してきた韓国のやきものの魅力について紹介します。



白磁壺 朝鮮時代・17世紀後半～18世紀前半
当館蔵(松村實氏御遺族寄贈)

彩りの漆芸

【会期】4月19日(土) — 8月31日(日)

漆芸の技法の一つに蒨醤と呼ばれるものがあります。素地の上に塗り重ねてできた漆面を刃物で彫り、そこに色漆を埋め、研ぎだして文様を形づくるものです。色漆を使うことで多様な色彩表現が可能となり、表現は精緻なものになっていきます。

山口県で活動する漆芸作家の倅山美知子(1950～)は、この蒨醤の技法を使って作品を制作しています。1ミリにも満たない小さな穴を彫る「点彫り」を多用してイメージを形づくり、その無数の小さな穴に色漆を埋めていくことで、文様を浮かび上がらせていきます。

《蒨醤色紙箱「羽音」》(上掲写真)には、こうした細やかな技術で2匹の猫が生き生きと表現されています。さらに猫の視線を追っていくと、何かが飛んでいるかのようにも見えてきます。

本展覧会では、点彫りと豊かな色彩による表現を特色とする倅山美知子の作品10点を展示し、倅山の蒨醤のわざと作品の魅力について紹介します。



倅山美知子《蒨醤色紙箱「羽音」》1999年
当館蔵(倅山美知子氏寄贈) 撮影 山崎信一

特集展示

展示室8（陶芸館2F）

追悼 人間国宝 山本晃 —彫金のわざと美

【会期】4月19日(土) — 8月31日(日)

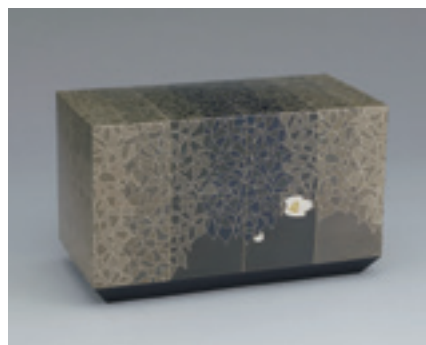
本展覧会は、昨年12月28日に逝去し、山口県でただ一人の「人間国宝」であった山本晃氏^{やまもとあきら}を追悼して、館蔵品をはじめとする作品により、彫金^{ちやうきん}のわざと美を紹介するものです。

山本は、1944年に山口県光市で生まれました。1969年に東京デザイナー学院工芸工業デザイン科を卒業後、音響メーカー・クラリオン株式会社デザイン室に入社。インダストリアルデザイナーとしてカーオーディオのデザインを行う一方で、次第にジュエリーデザインに関心を抱き、独学で技術を学び始めます。そこで習得した彫金技術が、のちに作品制作の柱となる「接合せ技法」^{はぎあわせ ぎ ほう}の礎となりました。

また、山本の制作を支えたもう一つの重要なものとしては、金・銀・銅といった金属を組み合わせて創出したいくつもの色金^{いろがね}があります。特に、銀と銅の組み合わせによってできる「四分一」^{し ぶ いち}は、それぞれの配合比率を調整することで濃淡が現れて豊かな階調を実現し、情感あふれる表現へとつながるものとなりました。

2014年にはその制作姿勢や技術の高さが認められて、重要無形文化財「彫金」の保持者(いわゆる「人間国宝」)に認定されます。

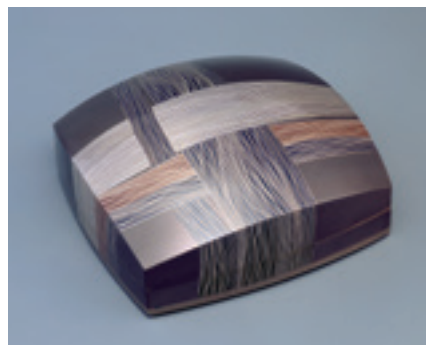
独学で彫金技法を学び、手探りの作家人生でしたが、既成概念にとらわれることなく、つねに「わざ」の限界を自らの方法で超えてきた山本の「わざと美」を、選りすぐった22点の作品と制作道具などを展示して紹介します。



山本晃《切嵌象嵌接合せ箱「白椿」》2009年
当館蔵 撮影 山崎信一



山本晃《接合せ金銀盛器「輝翔」》2014年
当館蔵 撮影 山崎信一



山本晃《接合箱「紡」》1997年 当館蔵

茶

室

新里明士 差異を繰り返さず、まだ
Akio Niisato Repeat a difference, still

【会期】2025年4月4日(金) — 2026年3月1日(日)

特 選 鑑 賞 室

当館が所蔵する浮世絵版画の名品を月ごとに展示しています。今年度は版元の葛屋重三郎(1750-1797)が売り出した喜多川歌麿(1753-1806)の美人画、東洲斎写楽(生没年未詳)の役者絵、そして二代目葛重が出版した葛飾北斎(1760-1849)の美人画を紹介します。

2025
4月



喜多川歌麿
「難波屋おきた」
寛政5年(1793) 大判錦絵

水茶屋難波屋の看板娘おきたが描かれています。おきたは、寛政の三美人に数えられた実在の人物です。

5月



喜多川歌麿
「青楼十二時 続 亥ノ刻」
寛政6年(1794)頃 大判錦絵

吉原の遊女たちの一日を十二の刻ごとに描いたシリーズから。亥の刻は午後十時頃にあたり、座敷で客と酒を酌み交わす遊女が描かれています。遊女見習いの亮は眠気がさして、まどろんでいます。

6月



葛飾北斎
「風流無くてなぐせ 遠眼鏡」
享和期(1801-1804)頃 大判錦絵

北斎の希少な美人大首絵。無くて七癖とは、誰にでも癖があるという意味の諺です。外出して遠眼鏡を覗く娘と母親の姿が描かれた本作は、物見遊山癖と言えそうです。

7月



東洲斎写楽
「三代目瀬川菊之丞の田辺文蔵妻おしづ」
寛政6年(1794) 大判錦絵

三代目瀬川菊之丞が扮するのは、田辺文蔵妻おしづです。敵討に助力する夫とともに貧しい生活を強いられ辛苦する役で、ほつれた髪に病鉢巻を締めた姿から、苦渋の様子がうかがえます。

8月



喜多川歌麿
「青楼仁和嘉女芸者部 大万度 荻江 おいよ 竹次」
天明3年(1783) 大判錦絵

吉原では、毎年八月に「吉原俄」と呼ばれる芸者たちの仮装パレードが行われました。荻江節の芸者おいよと竹次が身支度をしています。

9月



東洲斎写楽
「三代目市川高麗蔵の志賀大七」
寛政6年(1794) 大判錦絵

三代目市川高麗蔵は、当時女性たちから絶大な人気を得ていた花形役者です。懐から出した手は刀を握り、この芝居で起こる殺害シーンを予感させます。

10月



東洲斎写楽
「二代目瀬川富三郎の大岸蔵人妻やとり木」
寛政6年(1794) 大判錦絵

二代目瀬川富三郎は、その容姿から「にく富」「いや富」と呼ばれ親しまれました。小さな目に角ばった額。写楽は富三郎の顔立ちの特徴を誇張して描いています。

11月



喜多川歌麿
「山姥と金太郎 煙草のけむり」
享和元-3年(1801-1803)頃 大判錦絵

人形浄瑠璃や歌舞伎などで演じられた山姥のイメージをもとに、美しく優しい母の姿で描かれた山姥。こねた手つきで煙管を扱い、輪形の煙を吹いています。

12月



東洲斎写楽
「二代目中島三甫右衛門と初代中村富十郎」
寛政6年(1794) 間判錦絵

描かれている役者は、版行当時すでに亡くなっていた二代目中島三甫右衛門(天明2年[1872]没)と初代中村富十郎(天明6年[1876]没)です。三甫右衛門は閻魔大王となり、富十郎は冥界で手招きをしています。

2026
1月



東洲斎写楽
「初代中山富三郎の義興妻つくば御前」
寛政6年(1794) 細判錦絵

新田義興の妻つくば御前に扮する初代中山富三郎が描かれています。花弁と呼ばれる髪飾りや、打掛を羽織った上品な姿から、武家の女性らしさが感じられます。

2月



東洲斎写楽
「三代目市川高麗蔵の新田義貞実山田太郎高家」
寛政6年(1794) 細判錦絵

三代目市川高麗蔵が扮するのは、新田義貞への忠義から身代わりとなって討死するという役。熊手を持ち、格好よく見得を切っています。

3月



喜多川歌麿
「山姥と金太郎 耳そうじ」
享和元-3年(1801-1803)頃 大判錦絵

耳そうじをしてもらい、金太郎はとても気持ちよさそうです。山姥の表情には子への愛情が感じられ、優しい母の姿として描かれています。



令和7(2025)年度

山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館

メンバーズクラブ会員募集

山口県立美術館および山口県立萩美術館・浦上記念館の展覧会等を通じて美術に広く親しんでいただき、地域文化の向上に寄与することを目的として、2014年4月に「県立美術館メンバーズクラブ」を設立しました。現在、会員を募集中です。特典は入会したその日から使えます。皆さまのご入会をお待ちしております。

年会費

- 一般：3,500円
- 学生(19歳以上の学生)：3,000円
- シニア(70歳以上)：2,600円

※学生・教職員の方はキャンパスメンバーズもご利用いただけます(但し加盟校の方が対象です)。加盟校、内容は2館のホームページでご確認ください。

有効期間

令和7年4月1日(火)～令和8年3月31日(火)

募集期間

令和7年4月1日(火)～令和7年7月31日(木)

主な会員特典

2館の特別展の中から、好きな展覧会を5回分無料、6回目以降は半額でご覧いただけます。さらにコレクション展は何回でも無料でご覧いただけます。

特別展の無料観覧特典を同伴者おひとりのみ利用できます。(同伴者のご入場分は無料特典の利用回数に含まれます。)

会員証の提示で全国の提携館の入館料が割引になります。

【提携館・提携施設】

サントリー美術館(東京・港区)／植田正治写真美術館(鳥取・伯耆)／足立美術館(島根・安来)／島根県立美術館(島根・松江)／島根県立古代出雲歴史博物館(島根・出雲)／島根県立石見美術館(島根・県芸術文化センター「グラントワ」)／尾道市立美術館(広島・尾道)／ひろしま美術館(広島・中区)／広島県立美術館(広島・中区)／広島市現代美術館(広島・南区)／愛媛県美術館(愛媛・松山)※詳しい割引内容ご利用の美術館・博物館でご確認ください。

その他、会員限定イベントや展覧会情報のお届けなど詳しくはチラシまたはホームページで。

【お問い合わせ】9:00～17:00 ※休館日を除く
山口県立美術館 TEL 083-925-7788
山口県立萩美術館・浦上記念館 TEL 0838-24-2400

令和7(2025)年度

山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館

法人サポーターズ会員募集

法人サポーターズは、山口県立美術館および山口県立萩美術館・浦上記念館が行う文化芸術活動の充実強化を、地域の法人および個人事業主のみなさまにサポートしていただくことを目的とした会員制度です。なお、会員特典は従業員の皆さまの福利厚生や、お世話になっている方へのプレゼントとしてもご活用いただけます。

年会費

- プラチナ会員：1口 10万円(税込)
- ゴールド会員：1口 5万円(税込)

有効期間

令和7年4月1日(火)～令和8年3月31日(火)

申込受付期間

令和7年5月31日(土)まで

会員特典

- 1 会員証の提示で、特別展とコレクション展が2名様まで無料で何度でも観覧できます。
- 2 特別展共通の招待券を贈呈します。
※プラチナ会員は100枚、ゴールド会員は40枚
- 3 特別展の開会式にご招待します。
※プラチナ会員のみ
- 4 美術館情報を定期的にご案内します。
- 5 会員の社名・団体名を館内や両館のホームページで紹介します。

【会員区分と特典一覧】

	プラチナ会員	ゴールド会員
年会費	10万円／1口	5万円／1口
会員証	2枚	1枚
会員証提示で特別展・コレクション展とも2名まで無料 ※回数制限なし		
特別展共通券	県美・萩美 各50枚	県美・萩美 各20枚
開会式ご招待	○	×
ご案内送付	○	○
社名紹介(館内)	○	×
社名紹介(HP)	○	○

【お問い合わせ】9:00～17:00 ※休館日を除く
県立美術館法人サポーターズ事務局 TEL 083-925-7788
(山口県立美術館指定管理者サントリー・パブリシティサービスグループ)

令和7(2025)年度の特別展ラインナップ

山口県立美術館

特別展

カナレットとヴェネツィアの輝き

2025年 4/24(木)～6/22(日)

〈休館日〉月曜日(ただし4/28、5/5、6/2は開館)

18世紀の風景画を語るうえで欠かすことのできない巨匠カナレット(1697-1768)。その全貌を紹介する日本で初めての展覧会です。スコットランド国立美術館をはじめとする英国のコレクションを中心に、油彩、素描、版画など約60点で構成。日本国内の所蔵が極めて少ないカナレット作品をまとめることができる貴重な機会であるとともに、カナレットのみならず、その伝統を受け継いだ印象派の作品まで展覧し、ヴェネツィアという都市のイメージの変貌を辿ります。



カナレット《カナル・グランデのレガッタ》
1730-39年頃 油彩/カンヴァス ボウズ美術館、ダラム
The Bowes Museum, Barnard Castle,
Co. Durham, England

特別展

岩合光昭 写真展 PANTANAL

2025年 7/10(木)～9/7(日)

〈休館日〉月曜日(ただし7/21、8/4、8/11、9/1は開館)

「ネコ写真家」として人気の岩合光昭(1950年生まれ)は、世界的に著名な動物写真家です。その代表作の一つが、南米大陸中央部に位置する世界最大級の熱帯湿地パンタナールを撮ったシリーズです。世界遺産ともなっている大湿原で生き抜くジャガー、カピバラ、パラグアイカイマンなど多種多様な野生動物たちの生態を、約100点の作品により鮮明に浮かび上がらせています。



© Mitsuki Iwago

特別展

歌川国芳展 一奇才絵師の魔力

2025年 9/25(木)～11/24(月・祝)

〈休館日〉月曜日(ただし10/6、10/13、11/3、11/24は開館)

江戸時代末期の浮世絵師、歌川国芳(1797-1861)は、それまでの浮世絵の歴史を塗りかえる斬新な作品の数々を生み出し、国内外で高い人気を誇っています。その奇抜なアイデアや、現代に通ずるデザインセンスとユーモアは、時代を超えて多くの人々を魅了してやみません。本展は、武者絵や戯画をはじめ浮世絵版画や貴重な肉筆画など約400件を紹介する国芳展の決定版です。



歌川国芳《朝比奈小舟嶋道》
大判三枚続 弘化4年(1847) 個人蔵

2館共通情報
観覧料

コレクション展 | 一般400円(320円)／学生250円(200円)

※()内は20名以上の団体料金です。 ※70歳以上と18歳以下、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒は無料。
※有効期間内のメンバーズクラブ会員およびキャンパスメンバーズ加盟校の学生と教職員、法人サポーターズ会員は無料。

特別展ほか | 展覧会によって料金が異なります

会期・開館時間・入館方法等が変更になる場合があります。ご来館の際は事前に各館ホームページにて最新情報をご確認ください。



山口県立美術館
HP



山口県立萩美術館・
浦上記念館 HP

【開館時間】 9:00～17:00(入場は16:30まで)

【休館日】 月曜日(※祝日もしくは振替休日の場合は開館し、翌火曜日休館。ただし、特別展開催時は火曜日も開館。※特別展開催中のファーストマンデー(第1月曜日)は開館)、年末年始、展示替え期間

【住所】 〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1
TEL 083-925-7788 FAX 083-925-7790

山口県立萩美術館・浦上記念館

特別展

池田蕉園と輝方 一夢みる美人画

2025年 4/19(土)～6/1(日)

〈休館日〉月曜日(ただし4/28、5/5は開館)

池田(旧姓榊原)蕉園(1886～1917)と池田輝方(1883～1921)は、明治末から大正初期に、夢見るような甘美な女性を描いて一世を風靡した美人画家です。ともに文展で入



池田蕉園「かえり路」4曲1隻
1915年 東京国立近代美術館所蔵

賞を重ね、竹久夢二(1884～1934)に影響を与えるなど、近代美人画の形成に大きく寄与しました。特に蕉園は京都の上村松園(1875～1949)、大阪の島成園(1892～1970)と「三都三園」と並び称される存在でした。本展覧会は蕉園と輝方の代表作を一堂に集め、ふたりの画業を本格的に紹介する初の展覧会です。

特別展

躍動するアジア陶磁 一町田市立博物館所蔵の名品から

2025年 7/12(土)～9/23(火・祝)

〈休館日〉月曜日(ただし7/21、8/4、8/11、9/1、9/15、9/22は開館)

町田市立博物館は日本屈指の東南アジア陶磁と優れた中国陶磁のコレクションを所蔵することで知られています。本展ではその中から135件を厳選して紹介します。東南アジアでは多くの王朝や民族が盛衰を繰り返し、主に中国の影響を受けながら特色ある陶磁器を生み出してきました。本展では時代によって異なる技法や彩色表現に注目し、地域ごとに躍動感あふれる造形をみせるアジア陶磁の魅力にせまります。



青花象形水注 ベトナム 黎朝 15～16世紀

SCHEDULE 令和7年度(4月~6月)

■ 休館日 ■ イベント ● ギャラリー・ツアー ◆ ギャラリー・トーク

4

APR

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
展示室1	浮世絵:水野年方(〜4/20)														浮世絵:近代美人画の系譜—浮世絵から日本画へ(4/22〜5/18)															
展示室2	東洋陶磁:日本人を魅了した韓国のやきもの(〜6/22)																													
展示室3~6	第48回山口伝統工芸展(4/5〜4/13)														特別展 池田蕉園と輝方—夢みる美人画(4/19〜6/1)															
展示室7	東洋陶磁・陶芸・工芸:萩美百華(〜4/13)														工芸:彩りの漆芸(4/19〜8/31)															
展示室8	陶芸・東洋陶磁:茶陶 萩(〜4/13)														特集展示:追悼 人間国宝 山本晃一彫金のわざと美(4/19〜8/31)															
特選鑑賞室	喜多川歌麿「難波屋おきた」(4/1〜4/30)																													
茶室	新里明士 差異を繰り返す、まだ Repeat a difference, still (4/4〜2026.3/1)																													

5

MAY

	1 木 ★	2 金 ★	3 土 ★	4 日 ★●	5 月 ★	6 火 ★	7 水	8 木	9 金	10 土 ◆	11 日 ●	12 月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土 土	18 日 ●	19 月	20 火	21 水	22 木	23 金	24 土 ◆	25 日 ●	26 月	27 火	28 水	29 木	30 金	31 土 土
展示室1	浮世絵：近代美人画の系譜—浮世絵から日本画へ（～5/18）																		浮世絵：月岡芳年 新形三十六怪撰（5/20～6/22）												
展示室2	東洋陶磁：日本人を魅了した韓国のやきもの（～6/22）																														
展示室3～6	特別展 池田蕉園と輝方—夢みる美人画（～6/1）																														
展示室7	工芸：彩りの漆芸（～8/31）																														
展示室8	特集展示：追悼 人間国宝 山本晃一彫金のわざと美（～8/31）																														
特選鑑賞室	喜多川歌麿「青楼十二時 続 亥ノ刻」（5/1～5/31）																														
茶室	新里明士 差異を繰り返す、まだ Repeat a difference, still（～2026.3/1）																														

6

JUN

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
展示室1	浮世絵:月岡芳年 新形三十六怪撰(〜6/22)														浮世絵:月岡芳年 風俗三十二相(6/24〜7/27)															
展示室2	東洋陶磁:日本人を魅了した韓国のやきもの(〜6/22)														東洋陶磁:アジア陶磁の茶道具—取り合わせの楽しみ(6/24〜9/28)															
展示室3~6	※1																													
展示室7	工芸:彩りの漆芸(〜8/31)																													
展示室8	特集展示:追悼 人間国宝 山本晃一彫金のわざと美(〜8/31)																													
特選鑑賞室	葛飾北斎「風流無くてなぐさ 遠眼鏡」(6/1〜6/29)																													
茶室	新里明士 差異を繰り返す、まだ Repeat a difference, still (〜2026.3/1)																													

※1 特別展 池田蕉園と輝方—夢みる美人画(〜6/1)

- ★ イベント

記念講演会

【日時】4月19日[土] 13:30〜15:00

【演題】「蕉園と輝方 時代をうつす美人画の魅力」

【講師】古田あき子氏(美術史家)

【会場】講座室(座席数84席)

オリジナルペーパーバックをつくろう!

【日時】4月29日[火・祝]〜5月6日[火・休]

【内容】池田蕉園と池田輝方の作品を絵柄にした紙製バックをつくります。
- ギャラリー・ツアー

〈担当学芸員による特別展作品解説〉

池田蕉園と輝方—夢みる美人画

【日時】会期中の毎週日曜日 11:00〜12:00

【会場】本館2階展示室
- ◆ ギャラリー・トーク

〈担当学芸員による展示作品解説〉

いずれも11:00〜(30分程度)

◆ 4月12日[土] 水野年方

◆ 4月26日[土] 日本人を魅了した韓国のやきもの

◆ 5月10日[土] 近代美人画の系譜—浮世絵から日本画へ

◆ 5月24日[土] 彩りの漆芸

◆ 6月14日[土] 月岡芳年 新形三十六怪撰

◆ 6月28日[土] 追悼 人間国宝 山本晃一彫金のわざと美

臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。

詳しくは当館ホームページをご覧ください。

URL <https://hum-web.jp/>



公式HP

表紙について

池田蕉園「かえり路」4曲1隻(部分) 1915年 東京国立近代美術館所蔵

桜花が舞い散る中、花見帰りの女性たち。大正4年(1915)の第九回文展で三等賞を受賞した作品。当初は六曲屏風でしたが現在は四曲が残されており、失われた二曲には若武者の後ろ姿が描かれていた事が分かっています。中央の母親らしき人に付き添われた若い女性は、通りすぎた若衆に視線を送っているのです。それに気づいた二人の少女は、噂話をしています。池田蕉園(1886〜1917)は、京都の上村松園(1875〜1949)と同時代に活躍し、「西の松園、東の蕉園」と称えられた人気の美人画家でした。

交通アクセス

【新山口駅から】

- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で 萩・明倫センター下車、徒歩約5分
- 防長バス(約90分)で 萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】[萩・石見空港から]

- 萩近鉄タクシー(乗合タクシー) 約70〜80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

- JR 萩駅からタクシー約7分
- JR 東萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約20分
- JR 玉江駅から徒歩約20分

【自動車】

- 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
- 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



最新情報は公式SNSで

山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM

〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1 TEL 0838-24-2400 FAX 0838-24-2401
URL <https://hum-web.jp/>

季刊「萩」 令和7年(2025)4月1日 通巻第115号 [発行] 山口県立萩美術館・浦上記念館 山口県萩市平安古町586-1